

# 大牟田市立明治小学校

## 1 本校のESDの特徴

本校周辺には、介護老人福祉施設、幼稚園・保育園、多目的交流施設、公園、病院等の施設がある。工場地域も抱えており、市のリサイクル施設やリサイクル関連企業がある。このような校区環境の中で、本校はエネルギー・環境教育、福祉教育を中心にESDに取り組み、エネルギーや自然環境への関心を深め実践につなげる子ども、高齢者や体の不自由な人をはじめとする身近な人々に目を向け、自分にできることは何かを考えることができる子どもの育成を目指している。

また、本年度より財団法人日本科学技術振興財団から認定を受け、エネルギー教育モデル校として活動を始めた。4・5・6年生の総合的な学習の時間や理科・社会科などの教科の時間において、「持続可能な社会の構築に向けたエネルギー教育」をテーマに実践を進めている。

## 2 ユネスコスクールとしての活動・全体計画

	エネルギー・環境		福祉	
1年	めいじと なかよし だいさく せん1 (グリーンカーテンなど)	6月 生活	めいじと なかよし だいさく せん2 (幼保小交流など)	11月 生活
2年	めいじのすてき みつけたい (みどりの教室など)	11月 生活	あそび大すき あつまれ (異学年交流など)	9月 生活
3年	めざせ 植物博士	4~7月 総合	高齢者に昔のことを学ぼう	1~3月 総合
4年	くらしの中のエネルギー	9~12月 総合	車いすとバリアフリー	4~7月 総合
5年	ぼくたち、私たち環境探検隊	4~9月 総合	ふれあいを広げよう	9~12月 総合
6年	未来エネルギーの町 大牟田	9~12月 総合	未来への扉を開こう	1~3月 総合

## 3 特徴的な活動事例

<4年生「くらしの中のエネルギー」>

### (1) 目標

- 電気エネルギーについて調べる課題を設定して、電気の利用や発電について調べたことをまとめ表現する。
- 電気エネルギーを意識して自分の生活を振り返り、省エネルギー・省資源について考える。
- 限りある資源を大切に、有効利用するために、自分たちにできることを考え実践する。

## (2) 実践の展開

### ①使われる電気

学校や家庭で電気を何に、どのように使っているかを調べる。コンセントの数や電気を使う製品・電気料金などをもとに、わたしたちの暮らしの多くが電気によって支えられていることを理解する。

### ②電気はどこから

電気が計画的・協力的に作り出されていることを知り、その電気が発電所からどのように家庭まで届いているのか調べる。

### ③エネルギーについて考える

(i) 九州電力の出前授業や資源エネルギー庁発行の副教材「かがやけ！みんなのエネルギー」を活用し、発電の仕組みや電力の供給、エネルギー資源について調べたり話し合ったりする。また、二酸化炭素の温室効果についてモデル実験を通して理解する。



(ii) これまでに学習したことをもとに、エネルギーについてペアで自分たちの課題をつくり、調べたことを「かべ新聞」にまとめる。

### ④電気のない生活

電気エネルギーを使わない生活やエコ活動をリフレスおむたでの野外活動で体験する。薪を燃やしてご飯を炊いたりお湯を沸かしたりする体験とともに、太陽焦熱炉を使って日光だけでサツマイモを蒸かすことにも挑戦した。



### ⑤太陽の力で (理科)

理科「もののあたたまり方」で学習した「温められた空気はふくらんで軽くなり、上の方へ上がる」を使って、気球づくりを行った。サーキュレーターで気球に送り込んだ空気が日光で温められて、上昇していく様子を見て歓声を上げていた。



## 4 本年度の成果と課題

### ○成果

- ・モデル校に認定されたことで、エネルギー・環境教育にこれまで以上に、学年の系統等を意識して取り組んでいくことができるようになった。
- ・ペアによるかべ新聞づくりを4・5・6年で行い、学級で発表したり掲示したりしたことで、エネルギー消費や環境への影響、省エネなどエネルギーについて多面的にとらえることができるようになった。

### ○課題

- ・エネルギーに関する課題を整理しつつ学年ごとの指導内容を十分に検討し、「持続可能な社会の構築に向けてのエネルギー教育」の確立を図る。
- ・エネルギーや環境への関心が高まってきたが、例えば unnecessary 照明が点いたままになっていけば消すという行動が自然とできるように、実践への意欲を高めていく。

